

♣ 扉 ちっぽけな心	サトータツオ 1
♥ まなぶということ	飯沼秀雄 2
♠ 今月の統計資料	4
◆ 詩 雲のゆび	東川絹子 8



## 特集 いまこそ

# 核のない平和な世界を

ウクライナへの軍事侵攻で核意識は変わるのか……伴 英幸	10
核の脅威から逃れる道は核廃絶しかない……金子哲夫	16
イランの核開発の心象風景……高橋和夫	20
戦争という現実を目の当たりに……平和をどう築くのか……湯浅 剛	24
中国の脅威と平和を希求する日本の現状……河辺一郎	28
コロナ禍に突きつけられた反戦平和の課題……近藤和樹	31

## 日本のうしろ 世界のうしろ

2022春闘からみえる労働運動の課題……新井栄三	33
老朽化する水道設備とコンセッション方式……岸田清美	33
フィリピンで独裁者の息子が大統領に……石山永一郎	33

第2特集 人権の連鎖 あなたの街でも相談会	52
-----------------------	----

職場の法律相談 交通事故で負担を求められましたが……只野 靖	58
--------------------------------	----

憲法 7 外国人との共生について……北川鑑一	61
------------------------	----

◆ キャラバンサライ	44
◆ スポーツ時評	46
◆ メルボルン便り	48
◆ 中国観看	50
◆ 北から南から	65
◆ センターとみなさんをつなぐ	68

カット＝野崎安希子

## まなぶということ

### 学習で「常識」を乗り越えよう

飯沼 秀雄

ふだん、「常識」から離れてものを考えることは容易ではありません。常識は、その社会、その地域や職場の主要なものの見方・考え方であり、そこへの同調圧力にはなかなか抗しきれません。

私が働いている職場には8カ所の支所があります。その一つ、市民の健康相談を担当する部署には非常勤の保健師が配置されています。さまざまな事情で非常勤として働いているようです。自治労でも非正規の組織化が進められています。そこで、非正規職場をオルグしてまわったところ、ある非常勤の保健師さんから「20年間で賃金が上がっていない」という訴えがありました。さっそく何人かに集まってもらい、お話を聞くと、「上司に賃金引上げをお願いしていましたが、ありませんでした」ということでした。

一般に、職場の相談は「まずは上司にする」ことが常識です。少し学習すればわかることですし、上司（組合員）に労

働組合の知識があれば、「これは私でなく組合役員に相談して」となります。その後、少人数でしたが実態交流や学習をする中で、当局は組合からの要求でないと受け付けないことを学んだ彼らは、担当課長と交渉するようになりました。課長も、賃金が20年も上がっていない事実を知らず、現場の上司からは要望は届いていませんでした。その後組合に加入し、時給が150円引き上げされました。組合の必要性が確認されたことで、組合未加入の方も結集してきました。

自治体に会計年度任用職員制度が導入されて3年目になります。私の組合では、あと1500人の会計年度任用職員の組織化が待っています。その中には、配偶者の扶養の範囲で働きたいという希望がある一方で、ダブルワークで生活をしている方もいます。

非正規だから賃金・労働条件が低位でも仕方ないという常識に対し、生活できる賃金（労働力の再生産費）とはなにかを学ぶ場をつくり、常識にとらわれることなく、安心して働きつづけられる職場にしていきたいと思っています。

（千葉県労働大学連絡会 代表）